

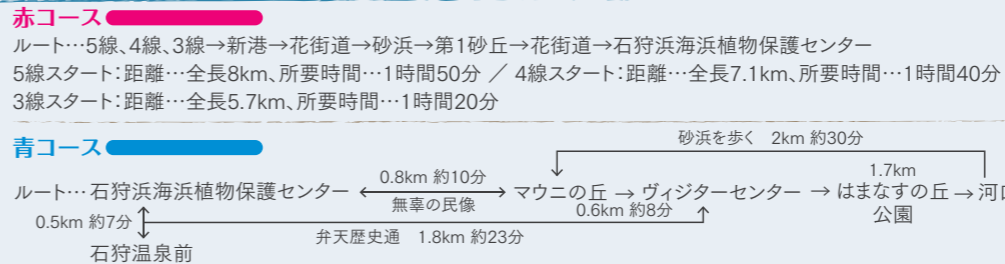
ISHIKARI FOOTPATH MAP

新港東から本町へのうみべみち

石狩湾新港東ふ頭周辺を通り、積丹半島から雄冬岬まで石狩湾の眺望を横目に、浜辺の自然を感じながら400年の歴史を有する本町地区へと向かうルートです。砂浜からハマニンニクやハマヒルガオなどの海浜植物に彩られた砂丘上の海岸草原を経て、ハマ

ナスの繁みから徐々にカシワの森へと変化していく景観は、他の地域ではほとんど見るのできない海辺の原風景です。海岸通りは、通称“花街道”と呼ばれ、春から秋にかけて様々な花や鳥が見られます。全国的に見ても貴重な自然をお楽しみください。

コースのルート／距離／所要時間



アクセス

- ・車：札幌から約40分、石狩市花川から約20分。
- ・バス：北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」発約40分～60分、「5線」「4線」「3線」「石狩温泉」下車。



コースの見どころ・名所

1 石狩放水路と風車



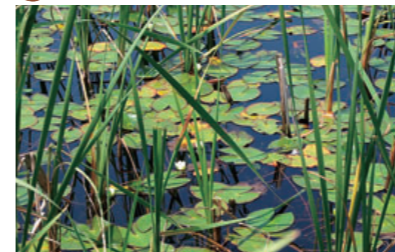
放水路は、茨戸川の増水した水を日本海へ流し出すためのもの。昭和57年完成。放水路に沿って、大小4基の風車がある。

2 石狩湾新港と朝市



石狩湾新港は小樽市と石狩市にまたがる重要港湾。朝市は、4月上旬～7月中旬営業、カレイ類、ヒラメ、シャコ、タコ、ソイ、加工品などを販売している。

3 名無し沼とヒツジグサ



砂利採掘の跡地に雨水が溜まってできた沼で、特に名前が無い通称“名無し沼”と呼ばれている。ヒツジグサやタヌキモが自生、水生昆虫も生息している。

4 弁天歴史公園



鮭漁で栄えてきた石狩のシンボルとして作られた公園。運上屋棟、先人たちの碑などがあり、近くには、石狩弁天社や、私設資料館尚古社、金大亭などがある。

5 はまなすの丘公園と石狩灯台



公園内は海浜植物保護地区で、木道を歩いて自然散策が楽しめる。ハマナスやハマボウフウが群生し、川沿いにはノナショウブなど湿地性の植物も見られる。また四季を通してさまざまな野鳥を見ることができる。



凡例

- スタート・ゴール
- ①-⑤ 見どころ・名所
- 👁️ ビューポイント
- ➡️ 眺める方向
- 🌿 海浜植物群生地
- 🍴 食事・カフェ
- 🚻 トイレ
- 🛢️ ガソリンスタンド
- P 駐車場
- 🚏 バス停
- 🏠 冬期休館
- 🛣️ 国道
- 🛤️ 道道
- 🚶 舗装道路ルート
- 🚶 未舗装道路ルート

500m

石狩海岸 フットパス



新港東から本町へのうみべみち

制作・編集・発行: いしかり海辺ファンクラブ

フットパスのマナー

- ゴミは持ち帰りましょう。
- 砂丘を崩したり、植物を傷つけたりないようにしましょう。
- 住んでいる人の生活と仕事に敬意を払いましょう。
- 港や船着き場を通る時は、作業者の邪魔にならないように注意しましょう。
- 漁具に触れないようにしましょう。
- 不必要な騒音は立てないようにしましょう。

フットパスを楽しむための注意

- 長時間歩くのに適した服装、装備をご用意ください。
- 砂浜や砂丘では、バギー車やバイクの走行に気をつけましょう。
- 道路を歩く時は、車に注意しましょう。
- コースによってはトイレや休憩場所が少ない場合があります。出発前に用を済ませてから歩きましょう。

ご利用の際の事故や怪我は自己責任となります。無理をせず安全第一でお楽しみください。

石狩海岸(石狩市本町地区)へのアクセス

Car

- 札幌方面から国道231号線を留萌方面へ。志美交差点を左折、道道225号線を約3km。
- 留萌方面から国道231号線を札幌方面へ。石狩河口橋を渡り右折し約3km。

Bus

- 北海道中央バス「石狩線」「札幌ターミナル」乗車約60分、「石狩温泉」下車。

お問い合わせ先

北海道大学大学院 農学研究院 気付 TEL&FAX: 011-706-2451 (担当:松島)
 mail: iufc.office@gmail.com web: http://ishikari-umibe-fc.jimdo.com
 写真提供: 石狩観光協会・石狩定期観察の会・北海道野鳥愛護会会員・いしかり砂丘の風資料館・石狩浜海浜植物保護センター

このパンフレットは一般財団法人セブーン・イレブ記念財団の助成により制作しました。 2013.2

石狩海岸の自然

石狩海岸は、札幌中心部から車で45分という大都市近郊にかかわらず、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜です。

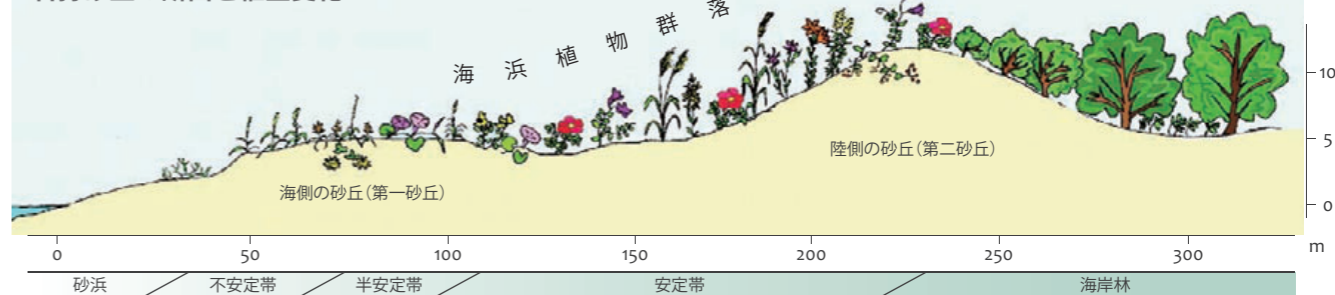
石狩川が運び、北西季節風が沿岸に寄せた砂によって形成された延長25kmにわたる海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワの天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の植生、海岸草原や水辺の野鳥、猛禽類、海浜特有の環境に生きる昆虫類等、これらすべてが石狩海岸のすぐれた自然の要素となっています。

海から内陸への植生の連続性

砂浜海岸は本来、海からの距離に応じて和らいでいく環境条件に対応して、植生の帯状の分布が見られ、海から内陸へ連続的に植生が変化していきます。しかし、近年は全国各地の砂浜海岸で、護岸・堤防建設、植林等により、本来の植生の連続性が失われつつあります。石狩海岸は、砂浜海岸本来の植生の連続性が大規模に残る全国的にも希少な自然海岸です。植物に覆われた砂丘は海岸の厳しい環境を和らげ、天然の防波堤として、高波などから背後を守ります。

また、すぐれた景観と快適なレクリエーションの場を提供します。

石狩砂丘の断面と植生変化



カシワの天然海岸林

小樽市銭函から石狩市厚田区望来まで、延長約20km最大幅約500m以上にも及ぶカシワの天然海岸林は、日本最大規模となっています。環境省が選定する「特定植物群落」のうち、郷土景観を代表する植物群落であり、人為的影響により急速に少なくなる恐れがある群落とされています。カシワは、厳しい海岸砂丘の環境に適応し、東北～北海道の天然海岸林を代表する樹種です。



カシワの実(9月頃)



冬のカシワ林

新たなルートの設定も計画しています。

- 3線ルート: 全長5.7km、1時間20分
 - 5線ルート: 全長8km、1時間50分
 - 4線ルート: 全長7.1km、1時間40分
- 石狩浜海浜植物保護センター

5線、4線、3線 ▶ 新港東・頭巾山 ▶ 花街道 ▶ 砂浜 ▶ 第一砂丘 ▶ 花街道

と向かうルート。途中の花街道では季節の花が楽しめる。

石狩湾新港東・頭巾山を通り、横丹半島から雄冬岬まで石狩湾の眺望を横目に、海から陸へ向かって植生が変化していく浜辺の自然を感じながら、本町地区へ

● 新港東から本町へのうみべみち

- 赤コース: 全長1.8km、35分
- 青コース: 全長2.3km、40分

新川河口 ▶ 砂浜 ▶ 沼 ▶ カシワ林 ▶ 新川河口

海浜植物群落や日本有数の天然カシワ林を身近に観察することもできる。

現在沼となっている、旧小樽内川跡周辺を歩くコース。多様な生物が生息する沼の周囲を廻ることができ、石狩湾と手稲の山並みの広大な景観が楽しめる。また、海浜植物群落や日本有数の天然カシワ林を身近に観察することもできる。

● 新川河口・旧小樽内川跡とカシワ林の道

コース紹介



小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの石狩海岸は、自然のままの砂浜、砂丘上に広がる海岸草原、カシワの天然海岸林が大規模に残る、全国でも希少な場所となっており、北海道自然環境保全指針(平成元年)において、保全を図るべき「すぐれた自然地域」に選定されています。砂丘海岸の豊かな生態系とともに、古くから人々は小樽と石狩をつなぐこの海辺の道を利用してきた歴史があります。近年になり石狩湾新港ができ、新たな開発が行われている場所でもあります。石狩湾の大パノラマのもと、自然と歴史と未来を体験できる数々の道を、あなたも歩いてみてください。

石狩海岸フットパスとは

石狩海岸に生きる生命たち

海、砂浜、草原、森……多様な自然のつながりが多様な生態系を育てています。この自然が残されているからこそ、各地で絶滅の危機に瀕している生きもの達が、当たり前のように石狩海岸では見られるのです。



オジロワシ



ハヤブサ



ハマシギ



ハマニガナ



ノゴマ



ノビタキ



エソカワラナデシコ



カシワ



ハマニシク



コウボウムギ



ハマボウフウ



ウンラン



ハマナス



エソスカシユリ



イソコモリグモ



アカダマツボンタケ



ハマヒルガオ



ハマエンドウ



イソスミレ

